昭島市立拝島中学校

令和５年度　授業改善推進プラン教科別計画　【数学科】

学年	作成者	現状分析による課題	具体的な改善策　「いつまでに」・「どのように」・「どの程度」	
			短期的な改善策	中・長期的な改善策
1年	山本 友利 後藤	①家庭学習の習慣が定着しておらず、学習内容が定着しない生徒が多い。 ②自身の考えを論理的に伝えることに課題がある。 ③公式や解き方、計算問題にばかり目が向いてしまい、やり方を覚えるだけで、根拠や構造、見方・考え方に意識がむかない生徒がみられる。 ④生徒に行った授業アンケートでは、「授業のまとめ、振り返りを行っているか」「授業は楽しいか」の質問に対する肯定的な回答が平均75%と、80%を下回った。生徒自身が授業を振り返りまとめる時間の確保と教科の楽しさを感じる授業改善に課題がある。	①小単元ごとに演習問題の時間を取り、学習内容の定着を図る。 ②学びあいの場面を設定し、式や図、グラフ等を用いて自身の考えを他者に伝える機会をつくる。 ③授業の冒頭に振り返りに取り組むことで、既習事項とのつながりを意識させ、既習事項を活用して課題を解決しようとする姿勢を身につけさせる。 ②③④見方・考え方を働かせ、根拠や構造を考えさせる課題を設定し、学び合いの中で主体的に取り組ませることで、教科の楽しさを感じさせる。 ③④毎時間ごとに授業での思考の流れを振り返り、まとめる時間を確保する。	①単元の学習を終えた後に演習問題を行う。 ②④単元に１回以上、実生活に結び付いた題材を扱い、数学の有用性を実感させる。 ③④学びを振り返る場面を設定し、自身の考えを式や図、グラフ等を用いて伝える機会をつくる。 ②③初見の問題では、使用する知識・技能を提示し、何を使って考えるかではなく、どのように使うかに焦点を当てて授業を行い、思考・判断・表現力を高める。 ④問題に粘り強く取り組ませることにより、自らの力で課題を解決しようとする意欲を育む。
2年	中村 後藤 小坂	①教えてもらうのを待つ受け身な姿勢が目立ち、自分で考えるのではなく、友達が言ったことや板書をそのまま写すことで、わかったつもりになってしまう生徒が多い。 ②家庭学習の習慣が定着しておらず、知識が定着しない生徒が多い。また、家庭学習用のワークを計画的に進めようという気持ちが見られない生徒が多く、定期考査前に慌てて終わらせたりやらないまま終わってしまったりすることがある。 ③基礎的な計算力について、小学校の学習内容の時点で理解度に差がみられる。	①解法を説明する前に、既習事項を使って自力解決する時間を設ける。 ①授業内で演習の時間を多く設け、基礎的な計算力の定着を図る。 ②似た問題を繰り返し解かせたり、説明させたりすることで知識の定着を図る。 ②テスト前に確実にワークが終わるよう、取り組める時間を設ける。 ③復習をする時間を定期的に設ける。	①③新しい単元に入るときに、既習事項との関連を考えさせることで、関係性を理解したうえで取り組めるようにする。 ②テストや宿題を活用することで、家庭学習の習慣が定着するよう促す。 ①②③テスト後に、テストを振り返り、解き直す習慣をつけることで、自分の苦手を把握しその後の学習につなげられるようにする。
3年	小坂 友利 中村 後藤	①学力差があり、学習内容の定着に差が出てきている。特に知識・技能の定着は図れているが、少し発展的な内容になると手が止まる生徒が多くいる。 ②ワーク等の課題に関しては、取り組みはするものの、期限までに提出することを一番に考えており、内容理解まで手が回っていない生徒も多くいる。今後は受験も控えているので、学習に対する意識を変える工夫が必要となる。	①生徒一人一人に合った問題を作成し取り組ませる。また、生徒がタブレットに関する使用ルールが守られるのであれば、支援ソフトを活用する。 ②計算などの機械的に演習する問題も「なぜそのように計算していくのか」など発問をしていき、論理的思考能力を養っていく。 ②生徒同士の学びあい、教えあいの機会をつくる。	①家庭学習を定着させるために毎時間課題を出していく。また定期的に課題テストなどを行い、単元の定着も図っていく。 ②振り返りを毎回することにより、やりっぱなしの習慣から脱却させる。 ②粘り強く指導をしていき、自力で解決する能力を身に付けさせる。